

民主政治と国民主権



公共の学びを深めるところ Think...考えるコーナー(5分~10分) / Work...作業するコーナー(10分~20分)

(i) 民主政治の成立

■ 絶対王政から民主政治へ

ヨーロッパの近代国家=王による支配で成り立っていた。[¹]

この頃の思想 = **王権神授説** → 王による独裁支配を正当化

↓ 17c~18c [²] : 政治の仕組みを根本的に変えよう! という動きが世界的に拡大

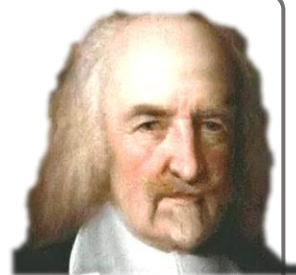
- ・ **社会契約説** : 王権神授説を否定する形で、新たな国の在り方を示した
 - ・ [³] : 人権を保障する憲法に基づく政治を行うこと
-

■ **社会契約説** : 自由で平等な人間が国家樹立のために契約を結び、それを基にした政治権力の樹立を提唱した

6 (英:1588~1679) Thomas Hobbes

- * **主 著** [⁷]
- * **人間観** 生まれつき自己中心で欲望を満たすために互いに争い合う
- * **自然状態** 「**万人の万人に対する闘争**」
→ このままでは人間は恐怖と不安に襲われてしまう。

- * **理想国家** 人民を守るために、すべての権利を放棄し **自然権を譲渡** する。
そして、統治者が 強大な力で国民を服従させるのが理想的である と説いた。
※結果的に絶対王政のような国家を正当化したことになった。



8 (英:1632~1704) John Locke

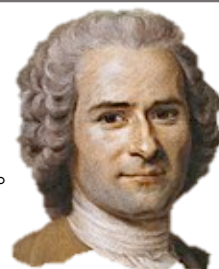
- * **主 著** [⁹]
- * **人間観** 人間は理性をもち、基本的には平和を求める。
- * **自然状態** 基本的に自由平等が保たれるが、確証はない。
一部の人により、財産や生命が侵害される危険もある。

- * **理想国家** 人権の侵害があった時にそれを 裁く権力 (= 議会) が必要! (**間接民主制**を理想)
国民は議会に **自然権を信託** し、万が一議会が権力を乱用したときには、**革命権** を行使



10 (仏:1712~78) Jean-Jacques Rousseau

- * **主 著** [¹¹]
- * **人間観** 自由で平等で、思いやりのある存在
- * **自然状態** 本来は平等な世界であるが、発達することで格差が生まれ、戦い生み出す。
- * **理想国家** みんなが初心に帰り、社会の幸福を目指す共通の意思(=一般意思)を基に、政治を動かす。つまり、みんなが政治に参加できる **直接民主制** が理想!



(ii) 議会制民主主義

国民主権の原理の下、多くの国が国民の代表者として議会を形成し、議会にて政策の審議決定を行っている。

これを**議会制民主主義**という ([¹²])と同意)

※代表者を置かずに国民投票による政策決定を行う制度を [¹³]という

議会制民主主義では「多数決の原理」が基本となるが、多数派=正しいとは限らないことに注意。

少数意見の尊重も欠かさず、十分な討論が求められるほか、そもそも多数決の方法にも試行錯誤が必要になる。

裏面で多数決について考えを深めてみよう。

column リンカーン大統領によるゲティスバーグ演説

エイブラハム・リンカーン : 第16代アメリカ大統領

1863年、南北戦争史上最大の激戦となった「ゲティスバーグの戦い」の跡地で、リンカーン大統領による演説が実施された。アメリカ合衆国が、南北戦争という試練を乗り越えて「新しい自由を生み出す」ためには、「人民の、人民による、人民のための政治」が必要であることを、聴衆に力強く訴えた名演説であった。

(前半省略) —それは、名誉ある戦死者たちが、最後の全力を尽くして身命をささげた偉大な大義に対して、彼らの後を受け継いで、われわれが一層の献身を決意することであり、これらの戦死者の死を決して無駄にしないために、この国に神の下で自由の新しい誕生を迎えさせるために、

そして、人民の人民による人民のための政治を地上から決して絶滅させないために、われわれがここで固く決意することである。

この演説はたった3分程度のものであったが、アメリカだけでなく世界中に民主主義の根本を訴えるものであった。実際に、日本国憲法の前文にも同様の内容が引用されており、影響力の高さを感じられる。



(iii) 権力分立

■ **権力分立**：政府による権力の濫用を防ぎ、政治権力の行使の仕方を制約する。

⇒各組織を相互監視することが目的=[¹⁴]と[¹⁵]の関係(チェックアンドバランス)

■ ロックの権力分立：立法権と執行権の権力分立を提唱

立法権は議会、執行権は国王が行使する。 ※立法権の方が優位であると主張

■ [¹⁶]の権力分立：立法権と執行権と司法権の権力分立を提唱

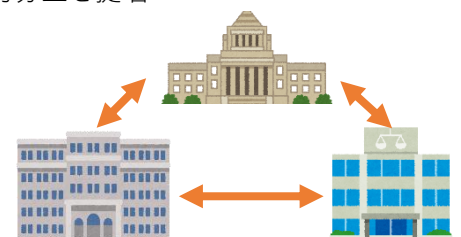
立法：議会

行政：内閣

司法：裁判所

三権をそれぞれに分離し、別で担当させる

= [¹⁷]



Work 正しい「多数決」とは？

■ 多数決の問題点

「多数決」といってもさまざまなやり方があるのは知っているだろうか。今日はオーソドックスな方法から、最近流行の最先端の方法まで、いろいろなパターンで多数決をやってみよう。クラスを6つの班に分け、投票をやってみる。

本日の投票テーマ この世で一番うまいアイスクリームはどれか



① チョコモナカジャンボ



② パルム



③ スーパーカップ



④ パピコ



⑤ 雪見だいふく

班ごとに相談し、5つの選択肢を「順位付け」してもらいたい。※これは途中で変えないこと！

1位 {	} 2位 {	} 3位 {	} 4位 {	} 5位 {
------	--------	--------	--------	--------

■ 様々なパターンの「多数決」をやってみよう！

No.1 シンプルな多数決 ★最もオーソドックスといえるパターン

A班 { } B班 { } C班 { } 勝者
 D班 { } E班 { } F班 { }

No.2 決選投票を含める

No.1の投票で上位に残った2つ → { } と { } 勝者
 その2つを選んでいない班が、どちらかを選択する決選投票

No.3 ボルダ方式対決

「ボルダルール」とはフランス海軍の科学者ジャン＝シャルル・ド・ボルダが考案した手法。

候補のうち **1位には3点、2位には2点、3位には1点**と配点するルールを決め、獲得した点数の多い項目を選出する。通常の多数決では評価されない2位以下の得点も考慮され、より多くの人からの評価を集めた人が選ばれる利点がある。

	①チョコモナカ	②パルム	③スーパーカップ	④パピコ	⑤雪見だいふく
A班					
B班					
C班					
D班					
E班					
F班					
合計点					

勝者

No.4 コンドルセ方式対決

コンドルセ方式とはフランスの数学者コンドルセが提供した方法であり、「選好投票」とも呼ばれる。複数の候補者に対して投票者ごとに順位をつけ、2つずつ比較し、他の候補者よりもっとも優れていた候補を選出する。

わかりやすく言えば、1つずつ取り出して、総当たり戦をするという感じ！

勝敗を決める基本的なルールは、

- ①より高い順位がある方が強い（2位が4つよりも1位が1つの方が勝つ）
- ②同じ順位しかない場合は、その順位が多い方が勝つ（2位2つよりも2位3つが勝つ）

総当たり表を完成させよう！

	①ジャンボ	②パルム	③スーパー	④パピコ	⑤雪見
①チョコモナカ					
②パルム					
③スーパーカップ					
④パピコ					
⑤雪見だいふく					

勝者

■ まとめ

今回の活動を通して、最も感じてもらいたかったのは、多数決＝全体の意思ではないということ。

多数決にすれば一見合理的で平等に思えるかもしれないが、その裏では自分の意見が通らない少数派が存在していることを忘れてはならない。今回は教室で実施したが、これが国全体の選挙で考えれば、自分の意見が通らない人はさらに多くなってしまう。

選挙や政治は、効率的にやることも大切だけれど、どうすれば少数派の意見も取り入れられるかを考えながら、選挙制度やマスメディアのあり方を見直し続ける必要がある。

また、みんな自身も、「多数派＝正しい」と思い込まずに、自分の頭で考えられる力が重要になってくる。

民主政治と国民主権



公共の学びを深めるところ Think...考えるコーナー(5分~10分) / Work...作業するコーナー(10分~20分)

(i) 民主政治の成立

■ 絶対王政から民主政治へ

ヨーロッパの近代国家=王による支配で成り立っていた。[¹ **絶対王政**]
この頃の思想 = **王権神授説** → 王による独裁支配を正当化

4 **君主主権**



17c~18c [² **市民革命**] : 政治の仕組みを根本的に変えよう! という動きが世界的に拡大

- ・ **社会契約説** : 王権神授説を否定する形で、新たな国の在り方を示した
- ・ [³ **立憲主義**] : 人権を保障する憲法に基づく政治を行うこと

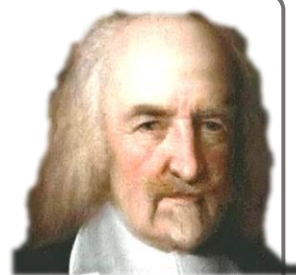
5 **国民主権**

■ **社会契約説** : 自由で平等な人間が国家樹立のために契約を結び、それを基にした政治権力の樹立を提唱した

6 **ホッブズ** (英:1588~1679) Thomas Hobbes

- * **主 著** [⁷ **リヴァイアサン**]
- * **人間観** 生まれつき自己中心で欲望を満たすために互いに争い合う
- * **自然状態** 「**万人の万人に対する闘争**」
→ このままでは人間は恐怖と不安に襲われてしまう。

- * **理想国家** 人民を守るために、すべての権利を放棄し **自然権を譲渡** する。
そして、統治者が **強大な力で国民を服従させるのが理想的である** と説いた。
※結果的に絶対王政のような国家を正当化したことになった。



8 **ロック** (英:1632~1704) John Locke

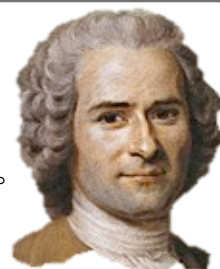
- * **主 著** [⁹ **統治二論**]
- * **人間観** 人間は理性をもち、基本的には平和を求める。
- * **自然状態** 基本的に自由平等が保たれるが、確証はない。
一部の人により、財産や生命が侵害される危険もある。

- * **理想国家** 人権の侵害があった時にそれを **裁く権力 (= 議会) が必要!** (**間接民主制** を理想)
国民は議会に **自然権を信託** し、万が一議会が権力を乱用したときには、**革命権** を行使



10 **ルソー** (仏:1712~78) Jean-Jacques Rousseau

- * **主 著** [¹¹ **社会契約論**]
- * **人間観** 自由で平等で、思いやりのある存在
- * **自然状態** 本来は平等な世界であるが、発達することで格差が生まれ、戦い生み出す。
- * **理想国家** みんなが初心に帰り、社会の幸福を目指す共通の意思 (= 一般意思) を基に、政治を動かす。つまり、みんなが政治に参加できる **直接民主制** が理想!



(ii) 議会制民主主義

国民主権の原理の下、多くの国が国民の代表者として議会を形成し、議会にて政策の審議決定を行っている。

これを**議会制民主主義**という（^[12] **間接民主制**）と同意）

※代表者を置かずに国民投票による政策決定を行う制度を^[13] **直接民主制** という

議会制民主主義では「多数決の原理」が基本となるが、多数派＝正しいとは限らないことに注意。

少数意見の尊重も欠かさず、十分な討論が求められるほか、そもそも多数決の方法にも試行錯誤が必要になる。

裏面で多数決について考えを深めてみよう。

column リンカーン大統領によるゲティスバーグ演説

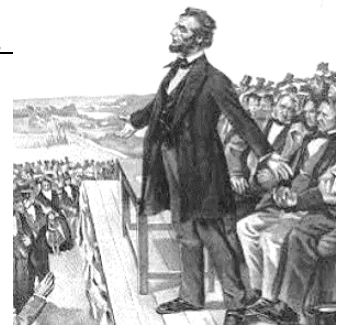
エイブラハム・リンカーン : 第16代アメリカ大統領

1863年、南北戦争史上最大の激戦となった「ゲティスバーグの戦い」の跡地で、リンカーン大統領による演説が実施された。アメリカ合衆国が、南北戦争という試練を乗り越えて「新しい自由を生み出す」ためには、「人民の、人民による、人民のための政治」が必要であることを、聴衆に力強く訴えた名演説であった。

（前半省略）—それは、名誉ある戦死者たちが、最後の全力を尽くして身命をささげた偉大な大義に対して、彼らの後を受け継いで、われわれが一層の献身を決意することであり、これらの戦死者の死を決して無駄にしないために、この国に神の下で自由の新しい誕生を迎えさせるために、

そして、人民の人民による人民のための政治を地上から決して絶滅させないために、われわれがここで固く決意することである。

この演説はたった3分程度のものであったが、アメリカだけでなく世界中に民主主義の根本を訴えるものであった。実際に、日本国憲法の前文にも同様の内容が引用されており、影響力の高さが感じられる。



(iii) 権力分立

■ **権力分立**：政府による権力の濫用を防ぎ、政治権力の行使の仕方を制約する。

⇒各組織を相互監視することが目的＝^[14] **抑制** と^[15] **均衡** の関係（チェックアンドバランス）

■ ロックの権力分立：立法権と執行権の権力分立を提唱

立法権は議会、執行権は国王が行使する。 ※立法権の方が優位であると主張

■ ^[16] **モンテスキュー** の権力分立：立法権と執行権と司法権の権力分立を提唱

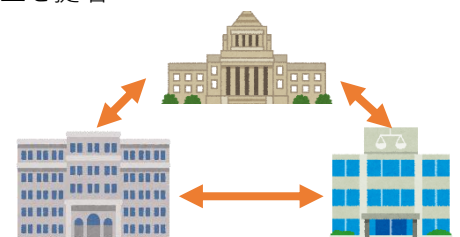
立 法：議 会

行 政：内 閣

司 法：裁判所

三権をそれぞれに分離し、別で担当させる

＝^[17] **三権分立**]



Work 正しい「多数決」とは？

■ 多数決の問題点

「多数決」といってもさまざまなやり方があるのは知っているだろうか。今日はオーソドックスな方法から、最近流行の最先端の方法まで、いろいろなパターンで多数決をやってみよう。クラスを6つの班に分け、投票をやってみる。

本日の投票テーマ この世で一番うまいアイスクリームはどれか



① チョコモナカジャンボ



② パルム



③ スーパーカップ



④ パピコ



⑤ 雪見だいふく

班ごとに相談し、5つの選択肢を「順位付け」してもらいたい。※これは途中で変えないこと！

1位 {	} 2位 {	} 3位 {	} 4位 {	} 5位 {
------	--------	--------	--------	--------

■ 様々なパターンの「多数決」をやってみよう！

No.1 シンプルな多数決 ★最もオーソドックスといえるパターン

A班 { } B班 { } C班 { } 勝者
 D班 { } E班 { } F班 { }

No.2 決選投票を含める

No.1の投票で上位に残った2つ → { } と { } 勝者
 その2つを選んでいない班が、どちらかを選択する決選投票

No.3 ボルダ方式対決

「ボルダルール」とはフランス海軍の科学者ジャン＝シャルル・ド・ボルダが考案した手法。

候補のうち **1位には3点、2位には2点、3位には1点**と配点するルールを決め、獲得した点数の多い項目を選出する。通常の多数決では評価されない2位以下の得点も考慮され、より多くの人からの評価を集めた人が選ばれる利点がある。

	①チョコモナカ	②パルム	③スーパーカップ	④パピコ	⑤雪見だいふく
A班					
B班					
C班					
D班					
E班					
F班					
合計点					

勝者

No.4 コンドルセ方式対決

コンドルセ方式とはフランスの数学者コンドルセが提供した方法であり、「選好投票」とも呼ばれる。複数の候補者に対して投票者ごとに順位をつけ、2つずつ比較し、他の候補者よりもっとも優れていた候補を選出する。

わかりやすく言えば、1つずつ取り出して、総当たり戦をするという感じ！

勝敗を決める基本的なルールは、

- ①より高い順位がある方が強い（2位が4つよりも1位が1つの方が勝つ）
- ②同じ順位しかない場合は、その順位が多い方が勝つ（2位2つよりも2位3つが勝つ）

総当たり表を完成させよう！

	①ジャンボ	②パルム	③スーパー	④パピコ	⑤雪見
①チョコモナカ					
②パルム					
③スーパーカップ					
④パピコ					
⑤雪見だいふく					

勝者

■ まとめ

今回の活動を通して、最も感じてもらいたかったのは、多数決＝全体の意思ではないということ。

多数決にすれば一見合理的で平等に思えるかもしれないが、その裏では自分の意見が通らない少数派が存在していることを忘れてはならない。今回は教室で実施したが、これが国全体の選挙で考えれば、自分の意見が通らない人はさらに多くなってしまう。

選挙や政治は、効率的にやることも大切だけれど、どうすれば少数派の意見も取り入れられるかを考えながら、選挙制度やマスメディアのあり方を見直し続ける必要がある。

また、みんな自身も、「多数派＝正しい」と思い込まずに、自分の頭で考えられる力が重要になってくる。